

2026年4月1日

2026年度いずみナーサリー経営計画

I.大学の中期目標(附属学校について)2022(令和4)年度～2027(令和9)年度を達成するための取り組み

(A) 【附属学校園の取り組み】

1.各附属学校園において、それぞれの年齢段階に応じた特色ある教育モデルに関する研究・実践を行うとともに、社会貢献及び学校教育水準の高度化等に資するため、その成果を社会に発信する。

(中期計画I-4 その他社会との共創、教育、教育研究の質の向上に関する事項【K19】)

2.大学と附属学校園が緊密に連携する「オールお茶の水」体制のもとで、連携を推進するための体制や教育研究環境の整備を図りながら研究や取組を協働して進め、学生の実習や教員の研修を行うとともに、先導的な教育モデルや教材等の開発及びそれらの成果の発信を進める。

(中期計画I-4 教育研究の質の向上に関する事項【K19】)

(B) 【その他、大学の各機関と連携した取り組み】

1.大学入学前からの総合知育成モデルの探求において大学と協働する。

(中期目標(前文)法人の基本的な目標3)

2.コンピテンシー育成を柱とする幼児期から大学卒業までの段階的教育モデルの開発・実践・発信においてコンピテンシー育成開発研究所と協働する。

(中期計画I-2 教育研究の質の向上に関する事項【K5】)

3.理系人材育成プログラムの開発において理系女性育成啓発研究所と連携する。

(中期計画I-2 教育研究の質の向上に関する事項【K5】)

4.今後発生が想定される自然災害に備え、大学とともにお茶の水女子大学防災計画の適切な運用を行う。(中期計画X-4 安全管理に関する計画)

II.保育目標

- (1) よく食べ、よく眠り、よく遊ぶ子
- (2) 自分の思いを表現する子
- (3) 人ともとの出あいを楽しめる子

III.いずみナーサリーの経営方針

1 使命 [ミッション]

- (1) 研究者支援と教職員の福利厚生の中核となる。
- (2) 乳児の発達と保育に関する研究をおこなう。
- (3) 学生の実習と多様な研究協力の場を提供する。
- (4) 乳児の発達の視点に立った質の高い保育を目指す。

2 展望 [ビジョン]

- (1) 保育所保育指針に基づき、日数選択型保育の大学内保育所として、その特性を活かし一人一人の子どもの生活リズムや発達に応じた柔軟な保育を、保護者と連携して行う。
- (2) 乳児保育に関する様々な課題やナーサリーの独自性(大学直轄/小規模/認可外/異年齢/日数選択/時間預かり実施/他の国立大学法人関連保育施設との共通点と相違点)と課題について、実証的研究を行う。附属学校間及び大学と連携して保育研究を深め、質の高い保育を目指す。
- (3) インターンシップ・保育観察・ボランティア学生を受け入れ、総合的保育者養成に協力する。
- (4) 大学、附属幼稚園、お茶の水女子大学こども園と連携し、生涯発達を見据えた0歳児からの保育カリキュラム及び乳幼児教育・保育の質の評価方法を開発し、積み重ねた保育実践を相対化し、大学内外に報告・発信する。

3 目標 [ゴール]

- (1) 保育課程：保育課程を主軸に置いた保育活動を展開し、保育記録(日誌・ポートフォリオ)を作成、活用しながら、子どもの育ちに合わせた応答的な保育環境、人的環境を作り出し、保育課程を評価、改善する。
- (2) 園運営：職員、大学、附属との連携を密にして安全・安心な保育所づくりを行う。保護者・学生と共に学び合い協力して子育てする「共育ち」「協育」を目指す。
- (3) 大学との連携：人間発達教育科学研究所、保育所専門委員会、三園合同研究会等、大学との連携を図る。インターンシップの実施、卒論・修論の研究協力を受け入れる。
- (4) 社会貢献：他大学・乳幼児保育者・教育関係者の見学や共同研究を通して保育を相対化することで乳幼児保育全般の質の向上を目指し、生涯発達における乳幼児保育の特異性・重要性の確認、発信を行う。乳児保育実践研究会、地域親子支援の会の定期的な開催、地域の子育て担当者(親等)支援を行う。

4 経営計画 [マネジメント・プラン]

(1) ナーサリー経営重点課題

① 保育課程

- 実践、記録から日々の保育を振り返り、常勤保育士、非常勤保育士との話し合いを重ね、一人ひとりの子どもの育ちを理解し、子ども援助のあり方、保育環境などの研究を深め、保育の質を高める。
- 保護者に様々な機会を通して専門職としての視点から子どもの育ち、保育所生活、あそびを具体的に伝えて子育て支援に努める。保護者同士の交流の場をつくり、共に育ち合う関係を築く。

② 保育所運営

- 保育所内外の安全点検の徹底、衛生管理に努め「健康で安全」な保育所を目指す。
- ナーサリーの保育内容について大学内周知を図る。
- 保護者の切実な要望を汲み取り、可能な範囲で保育所の運営に反映させる。

③ 大学との連携

- 日数選択制や随時入所といったナーサリーの独自性を有するキャンパス内乳児施設であることの意義や課題について、お茶大独自の幼保のつながりを生かした研究活動を行う。
- 大学と連携を図り、子育て中の研究者の子育て支援に努める。
- 3園合同研究会(附属幼稚園、お茶の水女子大学こども園、いずみナーサリー)やいずみナーサリー乳児保育実践研究会・前庭研究会などを通して学内外の研究者や保育者と連携し、乳幼児保育環境や乳幼児の表現、記録や評価の在り方について研究をする。
- 調理担当職員を複数置き、安全安心な食を追求する。食物栄養学学科の学生・院生や公認サークル OCHAS とも連携し乳幼児期の「食育」に取り組む。

④ 社会貢献

- 女性研究者支援関係、乳幼児保育者、教育関係者の見学の受け入れ、保育実践を外に発信する。
- 「乳児保育実践研究会」「いずみナーサリーであそぼう会」の定期的な開催により乳児保育実践者支援、地域の子育て担当者(親等)支援を行う。
- 定員の範囲内で再び学びたい方や規定の保育枠にあてはまらない保育を必要とする卒業生枠や地域枠を設け、多様な保育のあり方を検討する。

(2) ナーサリー各園務分掌の重点目標

① 事務

- 各分担の仕事内容の整理と明確化を進め、改善を加えながら園務分掌を遂行する。
- 入所希望見学者、登録者に保育内容や利用方法が明確に伝わるように努める。

② 危機管理

- 危機管理マニュアルに基づき、あらゆる場所と時間を想定した訓練と備蓄品の確認を行い、ANPICの有効かつ安定した運用が進められるようマニュアルの共有を進めていく。
- 感染症対策については、情報を各方面と連携して収集し、安心・安全な園生活を送ることができるよう日頃から準備し乳幼児の感染症拡大防止に努める。
- 教職員の情報セキュリティに対する意識を高め、情報管理体制の見直し、共有を行う。

③ 研究

- 研究主題「未満児保育における同僚性」「保育記録」「保育環境(室内・前庭・大学内キャンパス)」「保育実践から保育課程を考える」に取り組む。